

## 【日野原先生の「いのちの授業】

「いのちというものは目に見えますか?」「いのちというものは手でさわれますか?」という問い合わせから始まった日野原先生の「いのちの授業」。国語、算数、体育などの授業はもったことがあると思いますが、「いのちの授業」の時間はもったことがないでしょうと言われて子どもたちは「そうだな、いのちの授業ってどんなのだろう」と思ったようでした。

日野原先生がゴールキーパー役になり、子どもが蹴るボールを捕ろうとする姿を見て、事前に話を聞いてボールの準備をしていた私もドキドキしました。次はイチロー役の子どもにバットを持たせ自らピッチャー役。これまでの授業ではサッカーボールとバットの両方を使うことはあまりなかったということでしたので、授業が始まったところで、日野原先生の授業がいかに熱のこもったものになっていたかがお分かりいただけたことだと思います。

算数、英語を例に出し、日本の小学校の教育は根本から変えていかなければならぬとおっしゃったのには私も少々驚きました。「今のままではいけない」とおっしゃるときはなぜか私の方をじっと見ていらっしゃったような気がして、さらにドキドキさせられました。

いよいよ授業は本題へ。「空気は見えますか?」「酸素は見えますか?」・・・その中で、「木が動いているのは見えるけど風は見えない」とおっしゃいました。そのときは、自分も木を見て風を見ようとしているなかしたこと、落ち葉の動きを見て風を見ようとしているなかったことを恥ずかしく思いました。自分自身の目に見えるものしか見ようとしているなかったことに気づかされた思いでした。

「星の王子様」の中でキツネが言った言葉「大切なものは目に見えない」を引用するなど、子どもたちがこれまで読んだ本の中にも「いのちの授業」に通じるものがあることを伝えてくださいました。

さらに、日本が関わった戦争を教訓にして平和というものを考えることと、日々の生活の中で、仲直りのできないような喧嘩はしてはいけない、大切なものを傷つけたり危うくしてしまったりするようないじめはいけないということについても子どもたちが分かるように話してくださいました。「誰かが悪いことをしたら、許して。今度から悪いことするなよと言ってあげよう。」とおっしゃったことは難しいことではありますが、とても大切なことであることも子どもたちにはしっかりと伝わったようです。

最後は、時間についてのお話でした。「明日の時間を持っている?」「昨日の時間を持っている?」と問い合わせ、持っているのは今の時間だけであると子どもたちに話し、「誰のために寝るの?」「誰のためにご飯を食べるの?」「誰のために歯を磨くの?」と問い合わせ、「君たちは使える時間を持っている、成長するために自分の時間を自分のために使っている。」「でも、大きくなったら、誰かのために時間を使ってほしい。それができればただ時間を持っているだけではなく、時間を使うということになる。」とおっしゃいました。

私は今回の授業で日野原先生が私たちに伝えてくださったことを、一つの理想論とするのではなく、日々の学校生活の中で常に意識していくことがとても重要なことであると考えます。桐光学園小学校では賛美歌にある「またあう日まで」を歌うことはできませんでしたが、先生が最後に「今の3年生が小学校を卒業する前にもう一度来ましょうか。」とおっしゃってくださったことはとても嬉しく思いました。

(お知らせ) 日野原先生の授業のDVDを図書室に用意しました。子どもたちが本を借りるのと同じ方法で貸し出しをいたしますのでご希望の方はどうぞご利用ください。

## 【日曜の午後に】

日曜日にある幼稚教室で短い時間でしたがお話を聞く機会をいただきました。小学校受験前のいわゆる説明会とは少し違った内容で話をしてほしいとの依頼だったのですが、これから受験をしようとお考えの方たちを相手に何を話したらよいのか迷いました。そこで、今回は私が普段思っていることの中で、校長室だよりにも書いたことをいくつか話すことにしました。

「子どもの心の変化(流れ)と上手に付き合う・笑顔の大切さ・子どもは本来機嫌のよいもの」について話しました。

子どもの言動には親の思い通りにならないことがたくさんあると思うが、むしろそれが当たり前と思い、そういうときの子どもの心の変化にしっかり寄り添ってほしい。子どもに多くを期待するのは親の気持ちとして理解できるが、それを全て口に出すと子どもは自分の世界をだんだん窮屈なものと感じながらも、親の前では期待に応えるべく頑張りやさんになり、他の場面ではそれとは異なるような自分を表現するなど、自分自身を素直に表出できなくなることがあるのではないか。子どもが自分自身を表現できるようになるためには、周りの人々が自分に向ってくれる笑顔がとても大切であること、その笑顔によって自分が受け入れられているという安心感を持つことができるというようなことをお話をしました。

帰り道、外部の方にいろいろな機会にお話しすることは大事なことだが、在校生の保護者とあまり話す機会がないことが気になりました。